



マッシュ-川口の

from New York

「携帯電話は本当に安全なの?」の巻

ハイ、お元気? NYの激寒もなんのその、張り切ってマス。2001年だもんね。これを読んでいるときはもう新年あけましておめでとうのころよね。ハッピーニューイヤー~! 今年もよろしくね。

さて、私が朝日や読売のサイトと並んで情報源にしているスポーツ新聞のサイト。最近では日刊スポーツよりスポニチの方が充実してるね。先月このサイトで、ドキュメンタリーを見て好きになった浜崎あゆみちゃんが、ヒョウ柄の携帯電話をデザインしたという記事がニコリ笑顔の写真付きで堂々と掲載されていた。日本はおめでたいよ! ***)と、つくづく首をかしげたよ。

というのも、アメリカでは2000年の11月末にウォルト・ディズニー社がミッキーやミニ、 Donaldなどのキャラクターのライセンスをノキアから取りあげたため、子供に人気のかわいも携帯電話が店頭からいっせいに姿を消したの。そのワケは、英国オックスフォード大学の教授、コリン・ブレイクモア博士が「携帯電話の使用による子供の脳への障害の可能性」という衝撃的な論文を発表したからなのよ。博士によると子供の脳の頭蓋骨は薄いため、携帯電話から発する微量の電磁波が成長過程にある神経系統に作用し、脳の発達に影響するというの。さらに脳腫瘍の危険性が増すばかりか、ねずみを使った実験ではガンの可能性も高くなると訴えているのよ。また、携帯を耳にあてて会話していると電話から出る電磁波の60パーセントが頭の中を貫通し、脳に達することもあるというの。お~コワ! そういえば、メリーランド州在住の神経科医がモトローラを相手に、携帯電話の電磁波が悪性の脳腫瘍の原因になったとして8億ドルの賠償を求める訴訟をおこしたケースもあったのよ。

で、この問題を米3大ネットワークの1つABCが人気の報道番組「プライムタイム」で扱ったんだけど、この番組は世論に直結しているといわれるほど影響力が強いもんだから、さすがに世論の反響もすごかったみたい。ディズニーはABCの親会社だけに、子会社の発表に対して責任を取ったともいえるわね。

1999年の5月にイギリス政府が召集した科学者のグループも、携帯電話会社は子供をターゲットにしたマーケット戦略を取りやめるべきだと提唱しているわ。これに対してアメリカのほとんどの携帯電話会社は子供が登場する広告宣伝を中止したけど、99年にAT&TだけがテレビCMをオンエアした。その内容は、若くて忙しいワーキングカップルが子供に携帯電話をかけて、「犬の散歩をちゃんとやったの?」とか「ゴミを外にだしておいた?」と話すというもの。これに対してAT&T側は「特定の年齢層をターゲットにしたわけではない」と反論してる。



e-mail : masshyK@hotmail.com

カワグチ マサヨ

「NY在住のフリージャーナリスト。95年に渡米し、日本での取材番組のキャリアを生かして、テレビやラジオ、インターネットにNYからレポートを発信している。最近では、日本のニュース番組の取材コーディネーターとしても活躍。
Jump masshy.com



しかし、携帯電話もいま年間2,000億円ビジネスというドル箱。こういう危険を示唆する指摘があっても、普通「じゃ、売るのがやめます」と引き下がるわけないよね。携帯会社も、あの手この手で応戦している。その1つが、別の医者を探して連れてきての反論作戦。「そんな証拠はどこにあるのか」という論点で押してくるわけよ。いつも携帯を使っている私たちにしても仕事やプライベートで必要なので、すぐに使わなくなるわけでもなく、身に迫る恐ろしい例でもないわがざり、なかなかやめられないよね。

でも、子供に使わせるのはさすがに見合わせようという人は結構多いだろうけど。アメリカで子供が携帯持ってしゃべってるのは、あまり見かけないけど、日本では塾の送り迎えのためとかで、携帯が小学生に普及してるね。以前、帰国した際に本屋で小学生が地べたに座って大きな声で携帯電話で友達と話しているのを見たときには最初は驚いたわ。でも、携帯があるとどこでも連絡が取れて居場所がわかるだけに、家出の捜索願いが減ったとか。昨今では、家族の行動スケジュールの時間帯が合わないため、携帯電話によってつながっている「携帯家族」なんていう言葉も出てきてるしね。これじゃ、そう簡単に携帯電話がなくなるはずもないわけよ。

実はオックスフォードの博士たちも、いまずぐやめるというのではなく、携帯電話のそういう危険性を認識しなさいといってるだけなの。子供には、むやみに使わせないようにしようというアドバイスよね。消費者というよりも、おもに携帯電話を売る側への警告ね。消費者には携帯を直接耳にあてるのではなくイヤホンで話すようにと呼びかけている。そういえば最近、電車や街の中で日本に比べるとひと回り大きい携帯電話を手に握って、両耳にヌードのイヤホンつけて喋ってる人が多くなったわねえ。ちょっと不思議な光景なんだけどさ。

FCC (連邦通信委員会)によると、携帯電話の利用者が現在8600万人いるアメリカでは2年程前から、電磁波のレベルが記載されて端末が売られていて、SARレベルが表示されてるんだけど、そのレベルが1.6W/Kg以下のモノだと一応安全区域なんだって。私のは表示が義務付けられる以前のものだったので、FCCのサイトで電話の電池に書いてあるFCCのIDナンバーをインプットして調べてみたよ。そしたら、私の携帯のSARレベルは0.45。ホッ~。^^); 先日ついにFDA (米国食品医薬局) が本格的に携帯の人体における影響の調査に乗り出したの。これで公正な判断が下されるわ。結局、携帯もまだ登場して日が浅いから、本当の意味でのデータはこれからね。気がついたら脳腫瘍になってたなんてヤダもん、やっぱイヤホンを買って行こう! アナタも気をつけてね。マッシュ~)

- 今月の関連サイトはココ!
- 携帯と電磁波についての日本語のページ
- [Jump01 kodansha.cplaza.ne.jp/hot/science/2000_07_22/content.html](http://kodansha.cplaza.ne.jp/hot/science/2000_07_22/content.html)
- FCCのサイト(英語)
- [Jump02 www.fcc.gov/oet/rfsafety/](http://www.fcc.gov/oet/rfsafety/)

Illustration : Kido Satoko





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp